

Title	王明（陳紹禹）の抗日民族統一戦線論における若干の資料上の問題について
Author(s)	田中, 仁
Citation	
Issue Date	1982-07-01
Text Version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/11094/76708
DOI	
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

王明(陳紹馬)の抗日民族統一戦線論に おける若干の資料上の問題について

田 中 仁

(I)

従来、王明(陳紹禹)の抗日民族統一戦線論が問題とされる場合、(a)1937年11月の帰国以降の彼の見解に検討を加えるか、或いは(b)1938年7月に漢口で出版された『救國言論選集』を考察する事が多かったと思われる。同時に我々は、1935年8月における中共の抗日民族統一戦線路線への転換におけるコミンテルンの理論上の貢献を重視し、その関連において王明の抗日統一戦線論を把握しなければならない。⁽¹⁾筆者は、1937～8年段階において王明が展開している抗日統一戦線論をもって、1935～6年段階のそれを一概に一括しえないと考える。何故なら、第一に、彼の抗日統一戦線論は、1935～6年段階において形成され、西安事件から第二次国共合作更に日中全面戦争の開始という客観情勢の変化に伴って徐々に具体化(展開)されていくのであるが、彼の1937年末～38年にかけての個々の見解は、1935～6年段階のそれと異っている場合があり、第二に、『救國言論選集』には1935年から38年にかけての彼の抗日統一戦線に関する主だった論文がすべて収録されてはいるが、それらはいずれも発表当初の原稿に数々の加筆・修正・削除をほどこしており、本書によって1935～6年段階における彼の見解を導き出す事はできないと考えるからである。本稿は、これらの点について具体的な資料を掲げる事によって若干の考察を行うものである。

(II)

まず、1938年段階の資料として〔引用1〕を掲げよう。

〔引用1〕⁽²⁾

中國革命的現在階段的基本内容、不僅是反對封建殘餘的革命運動、而且反對帝國主義的革命運動、的確這對於中國革命只有好處。也正因為如此、所以目前中國革命、才能有真正最偉大的力量和最廣泛的範圍。中國共產黨的任務、不僅在於正確了解和估計這兩個革命巨流中間的互相關係、而且在於正確的政策、把這兩個革命任務適當地處理起來、以便使革命鬭爭底發展具有更巨大的力量 and 更廣泛的範圍。 (中略)

在這種局勢之下、布爾塞維克黨的任務、正在於運用自己勇敢的靈活的和正確的政策、去把革命的這兩大任務適當地處理起來、以便不僅吸收最廣大的、真正革命的、真正覺悟的和真正純潔的份子、而且吸收中國社會上各階級和階層中一切可能的、那怕是暫時

的動搖的同盟者及同路人，首先來參加民族解放的鬭爭，使中國革命盡可能地得到更多的力量和發展到更廣大的範圍。我們黨的新政策的實質恰是為的把革命的這兩大任務適當地處理起來，以便建立最廣大的反日民族統一戰線。（下線は引用者が付したものである。以下同じ。）

すなわち、王明によると、この時期における中共の任務は中国革命の反帝課題と反封建課題を「適切に処理して」すべての可能な勢力を「まず第一に民族解放鬭爭に参加させる」事であり、この様な脈絡の中で抗日民族統一戦線戦術をとらえていたのである。この事より、反封建課題を反帝課題に従属させていると彼の見解を評価しうるのである。

ところで、論文発表当初（1936年1月）には、下線部(a)は「配合」・(b)は「來參加民族解放和社會解放的鬭爭」・(c)は「人民反日統一戦線」と記されていた事に注目する必要がある。すなわち1936年段階においては、中共の課題は、反帝課題と反封建課題を「配合」(‘combine’)⁽⁴⁾してすべての可能な勢力を「民族解放と社會解放の鬭爭に参加させる」事にあり、「人民反日統一戦線」戦術——この表現については後述——は、かかる文脈の中で把握されていたのである。従って、王明が抗日統一戦線戦術の適用にあたって反封建課題を反帝課題に従属させたという評価は、37年末～38年段階（引用1）においては可能であっても、35～6年段階には妥当でないといえるであろう。

（Ⅲ）

下の(A)・(B)・(C)は、それぞれ1935年10月・1936年1月・1936年8月段階における王明の論文に字句上の修正をほどこして『救國言論選集』に収録されたものよりの抜粋である。

(A)抗日救國早已成為我國每個國民每個同胞底神聖天職。在民族危機日甚一日的條件之下，除了我們的偉大民族全體總動員去進行堅決的無情的反對日本帝國主義的英勇鬭爭而外，別無其他的救國方法，同時，在共產黨方面，除了反對日本帝國主義的民族統一戦線這個政策而外，沒有其他的任何辦法能動員全體中國人民去與日本帝國主義作神聖的民族革命鬭爭。⁽⁵⁾

(B)在民族危機日甚一日的條件之下，除了我們的偉大民族全體總動員去進行堅決的，無情的英勇的反日鬭爭而外，別無其他的救國方法；同時在共產黨方面，除了抗日救國的民族統一戦線這個政策而外，沒有其他任何辦法能動員全體中國人民與日本帝國主義作神聖的民族革命鬭爭。⁽⁶⁾

(C)現正由於日寇侵略而造成特殊歷史環境，在中國人民方面，除了團結一切力量共同抗日以外，沒有其他救國自救的方法；而在中國共產黨方面，除了建立民族抗日統一戦線這個政策以外，沒有其他任何能够動員和組織全中國人民去實行抗日救國的辦法。⁽⁷⁾

以上の(A)・(B)・(C)において、そのニュアンスに若干の相違を見いだす事はできるものの、ほとんど同内容であるといってもよいであろう。換言すれば、(A)から(B)へ更に(C)へという過程をこの記述より理解する事は不可能である。では、この(A)・(B)・(C)は、1935年10月・1936年1月・1936年8月の段階ではどの様に記されたのであろうか。以下、それぞれ(A)・(B)・(C)として引用したい。

(A')抗日救國早已成為我國每個國民、每個同胞底神聖天職。在民族危機日甚一日的條件之下，除了我們的偉大民族全體動員去進行堅決的、無情的、反帝國主義的英勇鬪爭而外，別無其他的救國方法；同時在共產黨方面，除了反帝國主義的人民統一戰線這個策略而外，沒有其他的任何辦法能動員全體中國人民去與帝國主義作神聖的民族革命鬪爭。⁽⁸⁾

(B')在民族危機日甚一日的條件之下，除了我們的偉大民族全體總動員去進行堅決的、無情的、英勇的抗日鬪爭而外，別無其他的救國方法；同時在共產黨方面，除了抗日救國的人民統一戰線這個策略而外，沒有其他任何辦法能動員全體中國人民與日本帝國主義作神聖的民族革命鬪爭。⁽⁹⁾

(C')現在由於日寇侵略而造成的特殊歷史環境，在中國人民方面，除了團結一切力量共同抗日以外，沒有其他救國自救的方法；而在中國共產黨方面，除了建立民族抗日統一戰線這個政策以外，沒有其他任何能夠動員和組織全中國人民去實行抗日救國的辦法。⁽¹⁰⁾

すなわち、(A')では、抗日救國鬪爭をすべての国民・同胞の神聖な天職としながらも、それをあくまで反帝鬪爭の一環である点を強調し、又、人民戦線論を展開している。(B')では、より直接的に抗日救國鬪爭を主張し、更に(C')に至って人民戦線論は民族統一戦線論に転換する。この(A')から(B')、更に(C')への過程は、王明における反蔣抗日論から逼蔣抗日論を経て連蔣抗日論に至る彼の抗日民族統一戦線論の形成過程に対応するものである。従って、先に引用した(A)・(B)・(C)は、1938年段階の王明の見解と理解するのが妥当であると考えられる。

(IV)

以上の考察で、1937年末～38年段階の王明の見解や『救國言論選集』をもって、少なくとも1935～36年段階の彼の抗日統一戦線論の評価は行い得ず、それを行う為には、まず当時の彼の論文の検討と、その段階における中共の見解との比較の必要である事が明らかになったと思われる。私は、1936年8月の「為獨立自由幸福的中國而奮闘」によって彼の抗日統一戦線論は形成されると考えるが、そこに至る彼の抗日統一戦線論に関する諸論稿を形成過程に対応させると〔表1〕の如くなるであろう。

〔表1〕

I 反蔣抗日論 (1935年8月～)

(1) Die revolution Bewegung in den Kolonialen und halbkolonialen Landern und die Taktik der Kommunistischen Parteien (モスクワ、1935年)、邦訳、『資料集』第7巻。

(2) 『論反帝統一戦線問題』(パリ、1935年10月)、影印、『選集』第4巻。

(3) 「答反帝統一戦線底反対者」(『巴黎救國報』1935年11月7日)、『選集』第4巻。

(4) The New Policy of the C. P. of China (Inprecorr., Vol. XV, No. 70, 1935年12月21日)

(5) The Basis of the New Policy of the Communist Party of China (Inprecorr., Vol. XV, No. 71, 1935年12月28日)

(6) Replies to Chief Arguments Against the Anti-Imperialist Front in China (Inprecorr., Vol. XVI, No. 2, 1936年1月11日)

(7) The Relations Between the Soviet Government and the People's Government of National Defence (Inprecorr., Vol. XVI, No. 6, 1936年1月25日)

(8) For a Change in All Spheres of Our Work (Inprecorr., Vol. XVI, No. 8, 1936年2月8日)

(9) The Struggle for the Anti-Imperialist United Front and Immediate Tasks of the Communist Party of China (The Communist International, special number, 1936年2月)

II 逼蔣抗日論(1936年1月～)

(10) 「新形勢興新政策」(『共產國際』第1・2期、1936年)

(11) The Struggle for the Anti-Japanese People's Front in China (The Communist International, Vol. XIII, No. 6, 1936年6月)

(12) 「怎樣準備投日?」(『救國時報』第27期、1936年4月30日)

(13) 「目前中國政局的出路」(『救國時報』第42期、1936年7月12日)

III 連蔣抗日論(1936年8月)

(14) 「為獨立自由幸福的中國而奮鬥」(『共產國際』第7卷、第4・5期、1936年)影印、『選集』第4巻。

尚、拙稿「王明(陳紹禹)の反帝統一戦線論について——1935年8月から1936年2月まで——」(『広島大学東洋史研究室報告』第2号、1980年10月)では、反蔣抗日論の段階における王明の抗日統一戦線論について若干の検討を加えた。

